


園だより 2月

いかに幸いなことでしょう あなたによって勇気を出し

心に広い道を見ている人は


詩編 84 篇 6 節



寒い日、暖かい日、日によって違う1月の日々。気温の変化などものともせず、子どもたちは元気いっぱいそれぞれの想いを発信しながら幼稚園の毎日をご過ごしていました。「園庭のあちらこちらで3学期ならではの子どもたちの豊かな遊びが展開された1月でした」この記述は昨年の園だより2月号に記しています。同じ時期に同じ感想が持てるということは、今年度の子どもたちの成長の証ではないでしょうか。嬉しいことです。

成長し続ける子どもたちには、こんなに成長して！と喜びを感じるとともに次への課題も見えてきます。その課題が生まれることこそが次への成長に繋がるのだと思います。『這えば立て、立てば歩めの親心』と昔はよく言われました。皆さんはご存じですか？成長すると、より次への期待（課題）の方が大きくなる親心。親ならではの理解です。けれども幼稚園では課題は課題として捉えつつも、まずはその子の今の成長をその子と共に、お家の方と共に、喜び合えることを大切に過ごしたいと願っております。幼児期の子どもたちはそれぞれに目を見張る成長をします。目に見える体の成長、目には見えない心の成長。視野の広がりや心の深まり。一つひとつを十分に喜び合うことは、子どもたちが自分自身を認める力になります。そして次の課題へ進むエネルギーにもなると思います。3学期はそれらを感じ過ごす大切な日々であります。

先日、ワイズの方とお話をしている中で、「YMCAは温かいんだよなあ、いつも誰かが声をかけてくれた。小学校では誰も気にかけてくれなかった」とお話をされました。私とその方との出会いは園児の保護者としてでしたので、てっきりご自分のお子さんを通わせる保護者の立場での感想を述べられているのだと思っておりましたが、お話を聞き続けると、なんとご自身が江東YMCA幼稚園で過ごされ、小学校に進まれての感想でした。「江東YMCA幼稚園は温かいですよね」と今も多くの方々から言われます。幼稚園を流れるその「温かさ」は50年以上も変わっていないということです。その安心する環境の中、成長を喜び合う2月の日々であることを願います。保護者も皆様と共に。宜しく願い申し上げます。



園長 駿河 幸子

